

ほのぼの

第48号

平成30年

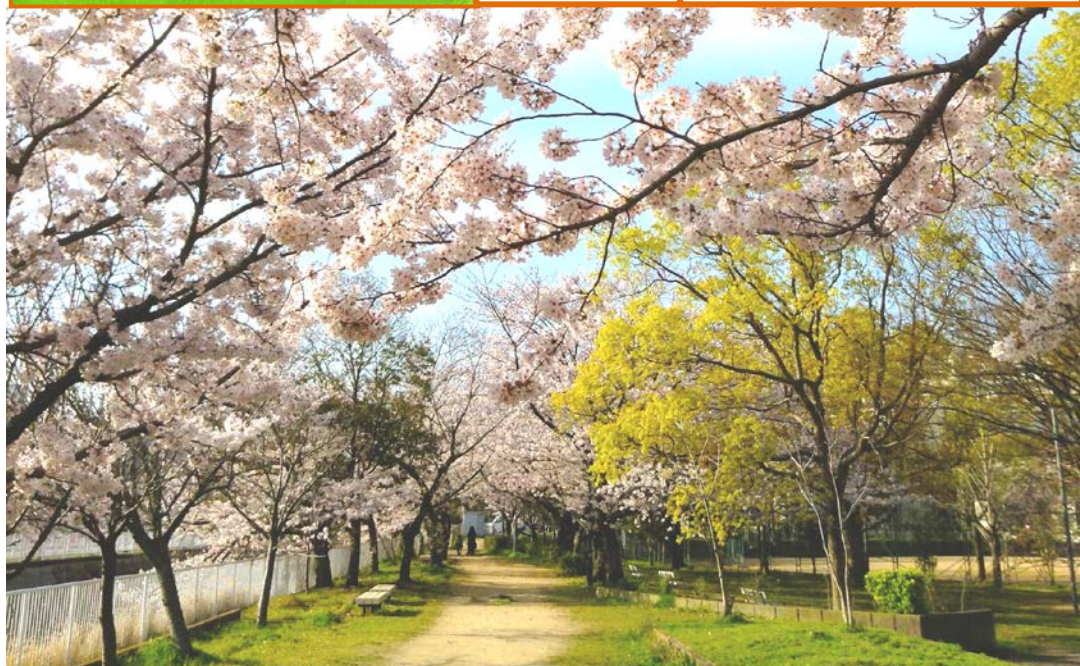
3月

発行

信行寺門信徒会

神戸市須磨区戎町1-2-3

TEL.078-732-5209



「老いることはゴミになることではない」

住 職

日本は今、「人生百年」の時代を迎えようとしているようです。しかし、思いもしない長寿時代に私たちは戸惑います。「ご院主さん、こんなに長生きするとは思いませんでした」と八十歳すぎの婦人が漏らしておられました。日本人がこれまでに経験したことのない社会になったからです。定年後のお金の問題もありますが、心の問題もあります。人生の終わりにのぞんで「どう生きたらいいのか。寝たきりや、痴ほうになったらどうしようか。子供には迷惑かけたくない。」など、いくらでも不安の種があります。誰もが持っている悩みです。

いつまでもしっかりと生きていたいと思いますが、老いると「若いときはよかったなあ」と、若くハツラツとしていた過去を懐かしむようになってくる。どうにかして若さと元気な身体を取り戻したい、少しでも「老いること」にブレーキをかけたいというわたしたちの気持ちを反映し、若返りを促進する美容品や健康食品が大盛

況です。

また、「終活（しゅうかつ）」という言葉も最近よく聞くようになりました。

七十代半ばのご婦人が「ご院さん、わたし今、「しゅうかつ」している

のよ」と聞かされたとき、就職活動の「就活（しゅうかつ）」だと早とちりしてしまったことがあります。終活とは、自分自身の人生の終わりに関する活動のことでした。



わたしたちには、「ひとに迷惑をかけたくない」という思いがあります。これは「ひとの役に立っている」という思いと同じで、プライドの一面です。誰にもプライドはあります。「迷惑をかけたくない」の思いの起こるのは、「迷惑をかけていない」という思い込みからきます。だから、「人間は老いも若きも支え合って迷惑かけ合いながら生きている」現実になかなか気づきにくいものです。しかも、「老

いると、役に立たなくなるから、生きている価値がない」と自分で決めてしまいがちです。どんなことが役に立ち、どんなことが役に立たないのか分からないままでの判断です。「価値」がなければゴミです。自分だけの知識で、自分をゴミにはしていない。「本当にそうですか」と仏さまにお尋ねすると、仏さまの答えは「ノー」です。

「ああ面白かった」で終わりたい人や、「いい人生であった」で終わりたい人もいるでしょう。しかし、生きてきた「これまでが良かった」というだけでなく、「これから良い」という人生の終わり方が大切だと思います。この世も良く、次の世も良いという生き方があることを知らせていただきましょう。

わたしたちは阿弥陀様にいだかれて生き、命終わると同時にお浄土に生まれて仏に成る人生を歩むのです。ゴミになる人生にはなりません。お念仏申させていただきましょう。



## ご本山 念仏奉仕団参加



平成二十九年十一月二十〇、二十一日に十二名が本山念仏奉仕団に参加しました。今回は赤坂亥才男さん、敏子さんご夫妻が二十回、新田光美さんが十回参加で表彰を受けられました。

※それにちなんで赤坂亥才男さんにお話を伺いました。



(☆) 初参加はいつだったんでしようか？

(赤坂さん) 私は平成二年の信行寺参加十回目の時でした。その頃私はまだ会社勤めをしていたんですが、門徒の方に誘われて参加しました。家内は平成五年に初めて参加しました。それまでは子育てやお寺の用事などが有りなかなか参加できませんでした。

(☆) 忙しい中二十回よく続けられましたね。

(赤坂さん) 私は途中二度大病をして休んだ時もありましたが、その頃は三十数人の参加者が有り、男の人沢山いたのです。それでまた誘っても

らって続いたのでしょうか。

(☆) 特に印象深かった事など有りますか？

(赤坂さん) 鐘の音で始まるご晨朝、御影堂の中がまだ暗く寒いところにだんだんと光が差し込んでくる様は、神々しい感じでした。思えば三代の御門主さまとご面接しているのです。

貴重なお話ありがとうございました。

赤坂さんには信行寺で数多くのお世話をして頂いております。これからもよろしく願います。

※平成十四年の寺報創刊号に、辻英子さんが念仏奉仕団への思いを次のように書いておられたのをご紹介したいと思います。

『参加してみても、私共が奉仕させて頂くのではなく、ご本山の有難さを授与されていると申しても過言ではないと思います。(中略) 信行寺様との御縁、お念仏の深い御恩、そして、み仏様との強い結びつきを喜んで頂けますよう、心の依りどころとして頂けるよう、お一人でも多くの方々のご参加を心よりお念じ申し上げております。』



## 和気あいあいの初法座

空 早苗

例年一月五日は門信徒会の皆さんと迎える初法座。

今年も本堂でのお勤め、ご住職のご法話で新年を迎えました。その後、礼拝堂で婦人会の方々の手作りおせちをいただき、アルコールも入り和気あいの会食となりました。

今年の催しは、ペープサートによる絵本「花さき山」の上演でした。光輪さんの朗読と副住職の雰囲気ある演奏を聞きながら、ブラックライトで浮き上がったペープサートを見ました。浮き上がった花畑がともきれいでした。

また、門信徒会会長新田泰三さんのトップバッターをかわきりに有志によるカラオケがあり、一層宴席が盛り上がりました。余韻を残しながらお開きとなりました。



来年もより一層楽しい初法座になりますように……。どうぞ初めての方もお気軽に参加してください。

◎絵本「花さき山」 作／斎藤隆介・絵／滝平二郎

【ストーリー】山菜取りに山に入った一〇才のあやが、不思議な花畑で山姥に出会い、里の人が良い行いをするとなが咲くことを教えてもらう。

（ペープサート）紙に人物などを描いて切抜き、棒をつけその棒をもって演じる人形劇

## 今日ともしらず、明日ともしらず

### 副住職

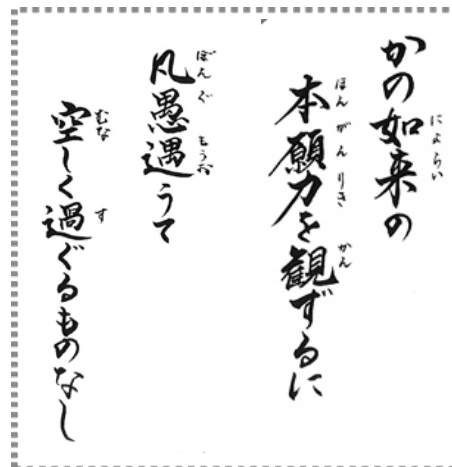
先日、友人の奥さんが四十二歳の若さで亡くなっ  
てしまいました。まだ幼い子供さんを残してどんな  
気持ちだったかと思うと言葉ありませんでした。  
まだまだ生きて、家族と一緒にやりたかったこと、  
仕事や趣味の夢などたくさんあったに違いない。残  
された友人にしても、行き場のない悲しみと憤りを  
感じていると思います。人生というのは自分の思う  
ようにならないものだとつくづく思うのです。もっ  
と生きたい、もっと一緒にいたいと思っても、死を  
まえにして私たち人間はなんと無力なことではし  
ょうか。お通夜や法事の際にはいつも、御文章の「白  
骨の章」を拝読させていただきます。「人間の一生  
は夢まぼろしのようなもの、一生は過ぎやすく、我  
やさき人やさき、今日ともしらず明日ともしらず、  
人間のはかないことは老少不定のさかいなれば、」  
普段は、生きているのが当たり前で明日も明後日も  
元気でいるものだと思っっているのですが、特に家族

や友人など近い関係の人が亡くなったときに拝読  
させていただくと、蓮如上人のことばが心にしみま  
す。人生において悲しみ苦しみを避けることはでき  
ないけれど、共にその悲しみや苦しみを引き受けて  
歩んでくださる存在があるなら、人はまた立ち上が  
って、一歩ずつ前に進んでいけると思うのです。

阪神大震災追悼法要にお参りしたとき、「いのち」  
をテーマにした中学生の作文朗読を聞く機会があ  
りました。中学三年生の女子生徒さんの祖父が余命  
宣告をうけて京都の仏教系ホスピスにおられたと  
き、彼女はよく訪ねて行って一緒に話をしていたそ  
うです。あるとき、「おじいちゃんは今もうすぐおら  
んようになってしまうかもしれないけど、仏さんにな  
って、ずっと一緒におるからな。いややゆうても、  
ずっと一緒におるからな」と言われたそうです。私  
たちは死んで終わるのではないのです。お念仏をよ  
ろこばれ、お浄土に生まれ往く境涯を生きぬかれた  
おじいさんの「ずっと一緒におるからな」という言  
葉は、そのまま如来さまのおこころのように感じま  
した。    なもあみだぶつ    なもあみだぶつ

# 法語カレンダール

本願寺出版社の法語カレンダーがあります。今回は五月の言葉の説明をします。



阿弥陀さまの本願念仏があるからこそ、それに出遇った者は迷いながらも生きていける。凡愚のわが身を安心して引き受けていけるのだろう。

「かの如来」とは阿弥陀如来のことです。悩み苦しみながら生きている私達を抱きとり、片時も離れず一緒に歩んでくださっている如来様です。「本願力」とは、私達を「必ず救いとる」という根本的な願い（本願）が成就し、今その力は、私達に力強くはたらきかけています。それを「本願力」または「他力」といいます。「観ずる」とは、その阿弥陀如来

の私達に対するはたらきの事実を知らせてもらうことです。「凡愚」とは、私達のありようを表しています。「凡」は「凡夫」、欲を出して腹を立てて日暮しをしている私達です。「愚」は「愚痴」、自分の行為のマイナス面に気付かず、自己弁護し正当化するために他の人を害している私達のことです。「遇う」とは、仏様の方から私達に遇いに来てくださって出遭ったことを意味しています。「本願力を信ずる」とことと同じ意味になります。普通に使う「会う」とは違います。両者が約束して出会うのが「会う」です。意味の違いに注目しましょう。「空しく過ぐるものはなし」とは、自分の一生が空虚のまま終わらないことです。

親に産んで育ててもらって、自分なりに一生懸命生きてきた私達の人生、これを阿弥陀如来は「絶対に空しく過ぎたということでは終わらせはしない」と仰せられます。その大悲の心ははたらいっているのが本願力です。「虚しく過ぐる人なし」というのは、信心あらん人、虚しく生死にとどまることなし」と親鸞聖人は述べられています。

# 日頃の疑問を考えよう

Q

五月二十六・二十七日に信行寺でも永代経法要が行われると聞きました。永代経とはどのようなお経なのですか？

A

なるほど、確かに「経」とあるのでお経の一つと思われるかもしれませんが、いえ。しかし、仏説永代経というお経はありません。永代経とは永代読経の略であり、「永代にお経が読まれる」という意味です。



A

では、どなたでもお参りしてかまわないのでしょうか？

Q

います。浄土真宗では、死者の追善供養のために読経しません。死者個人の「為」ではなく、死者を「縁」として、私が仏法に遇えるご縁を、故人が結んでくださり、聞法の機会を得る法要であります。（各宗派によって、位置づけは違います。）

もちろんです。この法要に合わせて、故人の年忌などにあたる家では、永代経懇志を納められます。永代経の永代とは、聞法の場合が永代にわたって維持されるように願うということです、納められた懇志は、お寺の修復や用具の新調などに充てられます。

A

では、永代経法要とは一体どのようなもの、また何のために勤められているものなのですか？

Q

故人の命日ごとに永代に読経するという法要です。親鸞聖人は、「おくれさきだつ悲しみは、凡夫としてあるべきことだ」と言っておられます。亡き人への思いは簡単に断ち切れるものではありません。それにとどまらず、先だって逝かれた人をご縁として、念仏のみ教えを子々孫々に伝えるための法要をい

お寺とご門徒が一緒にご先祖の遺徳を偲び、お念仏の教えを子孫に伝えていく思いをあらたにお参りしましょう。





## 信行寺行事予定とご案内

### 春の彼岸法要

三月二十四日（土）羽溪了先生

\*法話の後、お齋を一緒に

二十五日（日）住職

両日とも午後二時より

### 第十七回 門信徒会総会

四月二十八日（土）午後二時より

おつとめ・総会・法話

\*門信徒の皆様、多くの参加をお待ちしております。

### 花まつり

四月三日（火）午前十時より



\*甘茶・灌仏・献花献灯などを行います。お孫さんや知人等お誘いください。いたやど保育園の園児さん達と一緒に楽しい時間を過ごしましょう。

### 「写経の会」 毎月第二月曜日

午前十時～十一時半

皆様もご一緒にどうですか？

### 編集後記

お齋（おとき）とは、仏事の合間に出される食事のことです。法座のあとにテーブルを囲んで、ご縁のある方々と共に食（いのち）を頂く、という心が込められています。食を共に頂くと不思議とお互いの関係が近くなります。一年の始まりに家族が揃うこと。おせちを頂くこと。幸せなことですね。

今年の初法座にも有志の方が手料理を持ち寄って下さいました。そして、一品一品を配膳して下さいました。門信徒の皆様のお陰で素晴らしいお齋が出来上がりました。沢山のいのちを馳走して頂き、ご縁のある方々と共に今年も楽しく初法座を迎えることが出来ました。お一人暮らしの方も増えていきます。お寺でささやかながらも手料理でお酒もいただく正月もありがたいものです。

また、皆様の参加をお待ちしております。

本年も季節折々の信行寺の行事にお参り下さい。共に聴聞を重ねていきましょう。よろしく願っています。

米田 悦子